

岡山県感染症週報 2012 年 第 50 週 (12 月 10 日～12 月 16 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

◆2012 年 第 50 週 (12/10～12/16) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 48 週 2 類感染症 結核 4 名 (80 代 女 4 名)

第 50 週 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 3 名 (O157:10 代 男 1 名、20 代 男 1 名・女 1 名)

■定点把握感染症の発生状況

○感染性胃腸炎は、県全体ではわずかに減少しましたが、備北地域、真庭地域など県北部で患者が増加し、県全体・岡山市・倉敷市・備前地域・美作地域で発生レベル 3 が継続しています。

○インフルエンザは、県全体で 12 名の発生があり、前週とほぼ同数でした。

笠岡市の小学校 1 校でインフルエンザとみられる臨時休校があり、この患者のうち 2 名からインフルエンザウイルス B 型が検出されました。

○水痘は、真庭地域で発生レベル 2 が継続しています。

○RS ウイルス感染症は、前週とほぼ同数でした。

【第 51 週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157:10 代 女) の発生がありました。(12 月 18 日)

○感染性胃腸炎 (疑い) による学年閉鎖が備前市で 1 校、学級閉鎖が津山市で 1 校ありました。(12 月 20 日)

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 50 週は 3 名の発生があり、2012 年第 1～50 週までの累積報告数は 165 名になりました。腸管出血性大腸菌感染症の 12 月の発生件数は、過去 10 年では 2004 年の 5 件が最多ですが、今年は 12 月 19 日までに 10 名が報告されるなど患者が多発しています。岡山県では 8 月に発令した「腸管出血性大腸菌感染症警報」に加え、さらなる注意喚起を行っています。
患者から検出された腸管出血性大腸菌 10 件は全て血清型 O157 であり、また、このうち 8 件の遺伝子解析を県環境保健センターで行ったところ、全ての検体で解析結果が一致しました。感染源が同一であることも考えられるため、残りの O157 菌株の解析を進めるとともに、県、岡山市保健所、倉敷市保健所が共同で調査を行うこととしています。
[「腸管出血性大腸菌感染症警報 発令中!」](#) (岡山県感染症情報センターHP)
2. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、県全体ではわずかに減少しましたが (定点あたり 21.57 → 20.83 人)、県全体・岡山市・倉敷市・備前地域・美作地域では発生レベル 3 が継続し、県北部で患者が増加するなど、県全域で大きな流行がつづいています。発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。
3. **インフルエンザ**は、前週とほぼ同数で (定点あたり 0.15 → 0.14 人)、県全体で 12 名の発生がありました。臨時休業のあった笠岡市の小学校を含む備中地域で患者増加がみられますが、県内の発生はまだ散發的です。県内の詳しい発生状況などは『インフルエンザ情報』をご覧ください。
4. **水痘** (みずぼうそう) は、前週より増加し (定点あたり 1.57 → 2.00 人)、真庭地域 (4.50 人) で発生レベル 2 が継続しています。また、岡山市 (2.79 → 3.29 人)、倉敷市 (1.09 → 3.55 人) でも患者が増加傾向です。
5. **RS ウイルス感染症**の定点あたり患者数は、前週とほぼ同数でした (定点あたり 0.87 → 0.98 人)。美作地域 (3.67 人) で患者が多い状態がつづいていますので注意が必要です。冬に患者が増加する感染症であり、1 歳以下の乳幼児では細気管支炎や肺炎など重症化することもあります。ひきつづき感染予防に努めるとともに、県内の発生動向に注意してください。
6. **風しん**は、2012 年の全国集計で第 49 週までに 2,194 名が報告されています。患者発生のピークは過ぎたものの、現在も 1 週間に 40 人前後の報告があります。地域別では、東京都、千葉県、大阪府で患者発生がみられます。岡山県では、6～7 月にかけて男性 6 名が報告されましたが、それ以降発生はありません。
年末年始に風しんの流行地域に出掛け、その後、全身性の発疹、発熱、リンパ節腫脹などの症状がでた場合は、風しんの可能性もありますので早めに医療機関を受診してください。

◎感染性胃腸炎、インフルエンザ、RSウイルス感染症など冬に流行がみられる感染症が増加しています。

多くの学校が冬休みに入るため、学校での感染の機会は減りますが、年末年始にかけて、人の移動や人混みの中に出掛けることが多くなると、感染の機会も増加します。

外出後や調理前・食事前の手洗い、うがいを励行し、人混みでのマスクの着用など感染予防に努めてください。また、感染した時は、せきエチケットを守るなど他の人にうつさないように気をつけ、体調の悪いときは早めに医療機関を受診してください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		★★
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2 倍以上の減少 : 1.1～2 倍未満の減少 : 1.1 未満の増減
 : 1.1～2 倍未満の増加 : 2 倍以上の増加
発生状況: 空白:発生なし ★:僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★:多い ★★★★★:非常に多い
※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

【お知らせ】

○年末年始に海外へ旅行される方に向けた感染症情報が、厚生労働省のホームページに掲載されました。

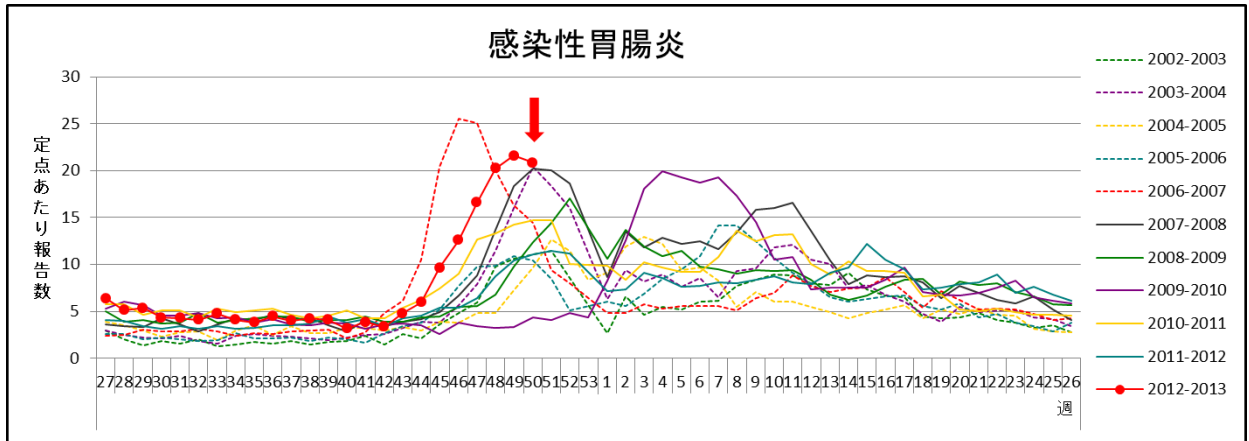
海外には、通常日本国内に存在しない感染症があります。海外で感染症にかからないようにするには、出発前にあらかじめ渡航先の感染症に関する情報を入手しておくことが大切です。渡航先では感染に気をつけ、帰国時に体調不良があれば空港の検疫所に相談しましょう。また、帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は渡航先も伝えましょう。

* [厚生労働省:年末年始における海外での感染予防について](#)

* [検疫所ホームページ:海外で健康に過ごすために](#)

感染性胃腸炎情報 2012 年 第 50 週 (12 月 10 日 ~ 12 月 16 日)

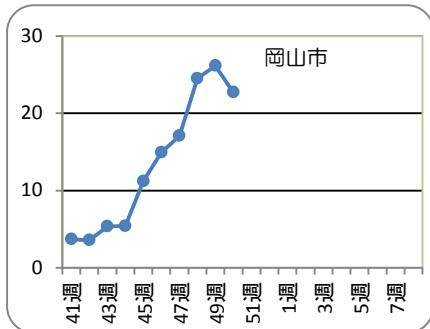
- 岡山県内の患者報告数は 1,125 名（定点あたり 20.83 人）で、わずかに減少しました。（54 定点医療機関報告）
- 岡山県全体、岡山市、倉敷市、備前地域、美作地域で発生レベル3 が継続しています。



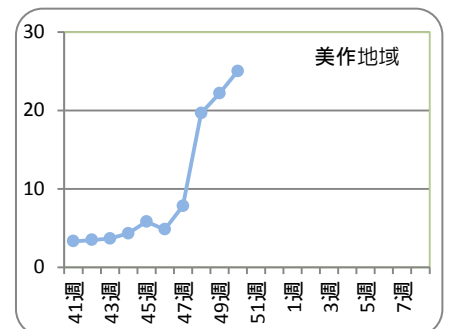
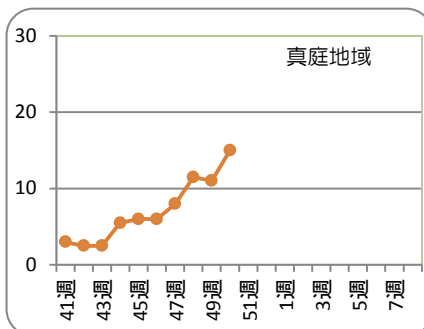
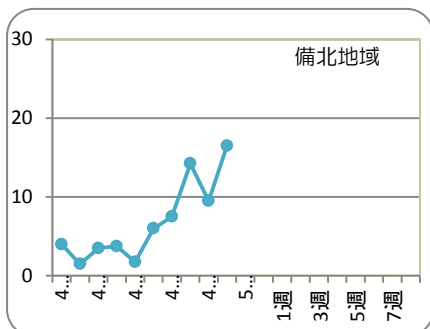
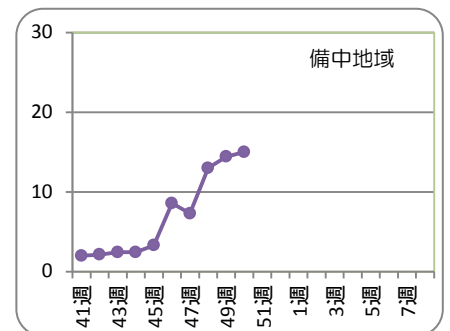
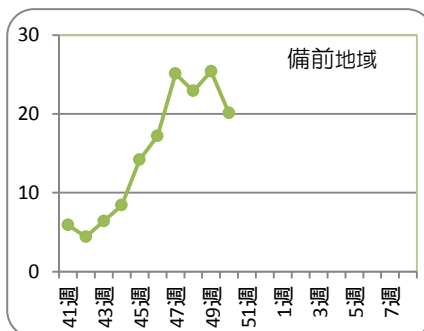
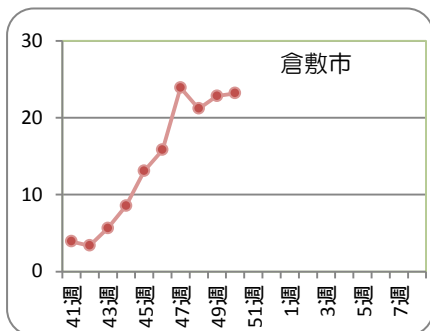
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ~ 翌年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

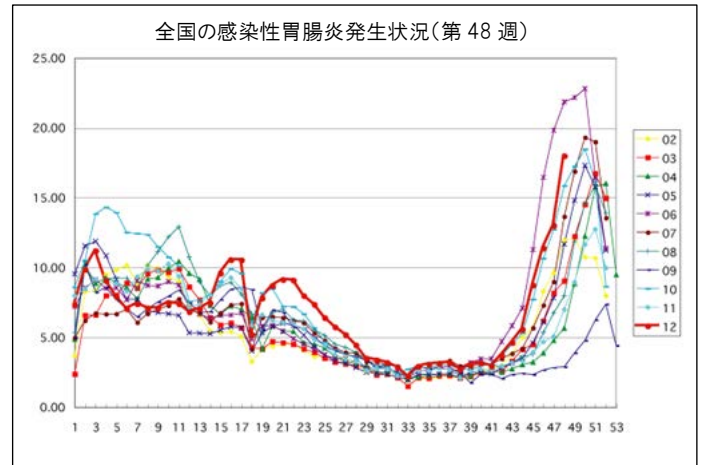
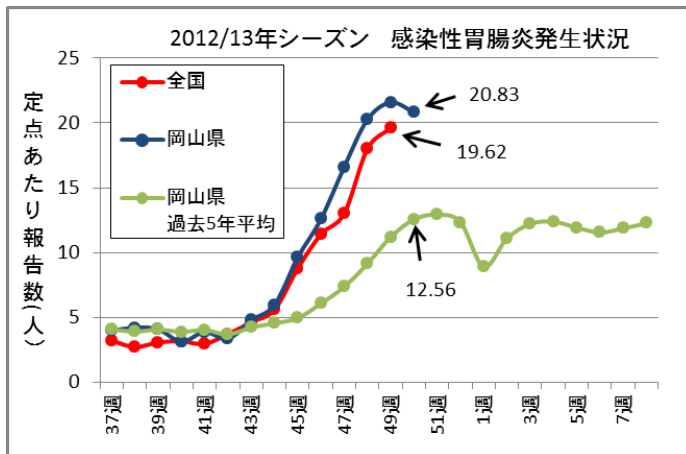
感染性胃腸炎は、県全体ではわずかに減少しましたが（定点あたり 21.57 → 20.83 人）、ひきつづき県内全域で大きな流行が継続しています。地域別では、岡山市（22.71 人）、倉敷市（23.18 人）、備前地域（20.10 人）、美作地域（25.00 人）で発生レベル3 が継続し、備北地域（16.50 人）や真庭地域（15.00 人）で、患者が大きく増加しています。これまで県南を中心に急速な拡大が見られましたが、県北部にも広がりを見せており、今後も拡大が懸念される状態です。

◆地域別・年齢別発生状況



年齢別では、2-3歳の幼児が19%で最も多く、5歳以下の幼児で53%を占めています。また、20歳以上の割合も13%から16%に増加しており、乳幼児、小児だけでなく、成人にも感染が拡大しています。





(国立感染症研究所HPより)

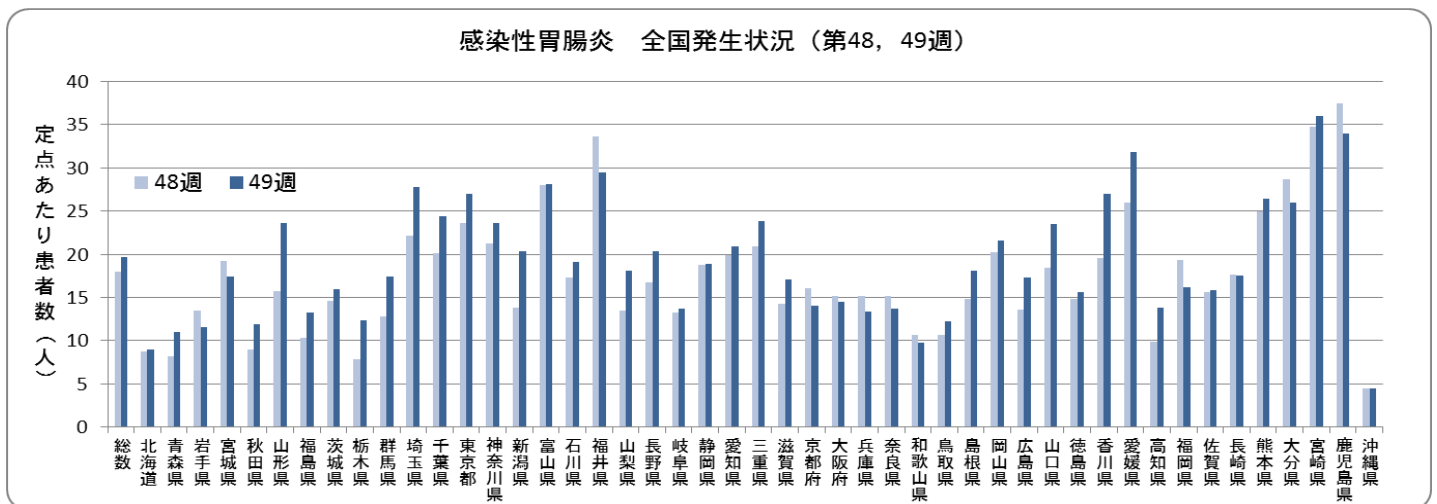
今シーズンに全国各地で検出されたノロウイルスの遺伝子解析によると、従来とは異なった抗原性を有すると推測される新たなGⅡ/4変異株が2012年10月以降全国各地で検出され、流行の主流になっているという報告があります。岡山県では食中毒患者からノロウイルスが検出されていますが、詳細については現在解析中です。

この時期の感染性胃腸炎の主な原因であるノロウイルスの感染予防は、流水・石けんによる手洗いの励行と、吐物や下痢便の適切な処理を行うことが極めて重要です。排便後や、調理・食事の前には手洗いを励行し、吐物や下痢便を処理するときは、処理する人自身が感染しないよう気をつけましょう。消毒には85℃で1分以上熱湯消毒するか、塩素系消毒剤が有効です。アルコールは消毒効果が低いとされています。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすことがありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[○ノロウイルスに関するQ&Aについて\(厚生労働省\)](#)

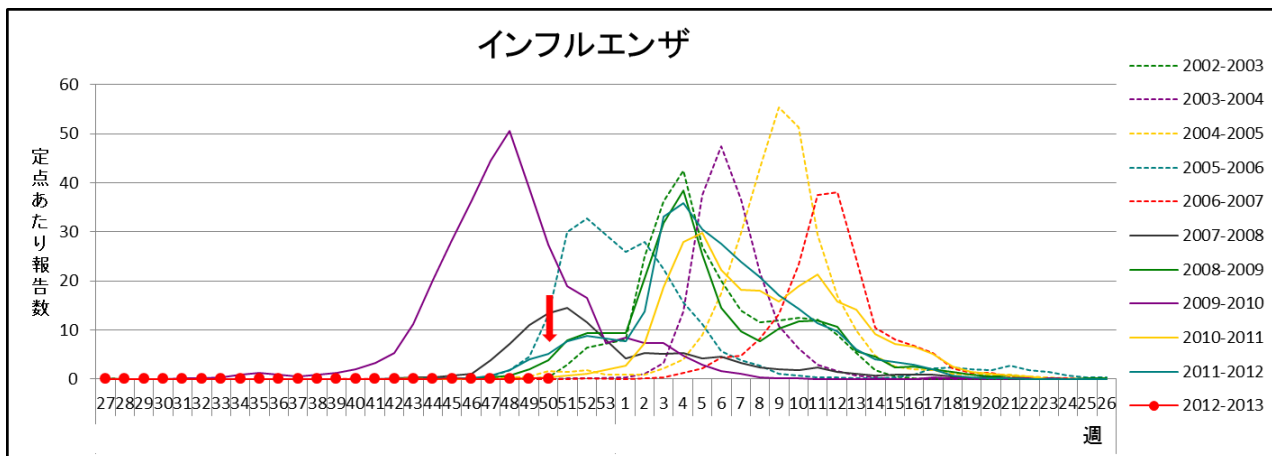
[○注意！この冬はノロウイルスに注意しましょう。\(厚生労働省\)](#)



インフルエンザ情報 2012 年 第 50 週 (12 月 10 日 ~ 12 月 16 日)

▶ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 12 名（定点あたり 0.14 人）の発生がありました。（84 定点医療機関報告）
- インフルエンザとみられる学級閉鎖が、笠岡市の小学校 1 校でありました。
このうちの患者 2 名からインフルエンザウイルス B 型が検出されました。
- 岡山市のインフルエンザ患者 2 名からインフルエンザウイルス AH3 型が検出されました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ~ 翌年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

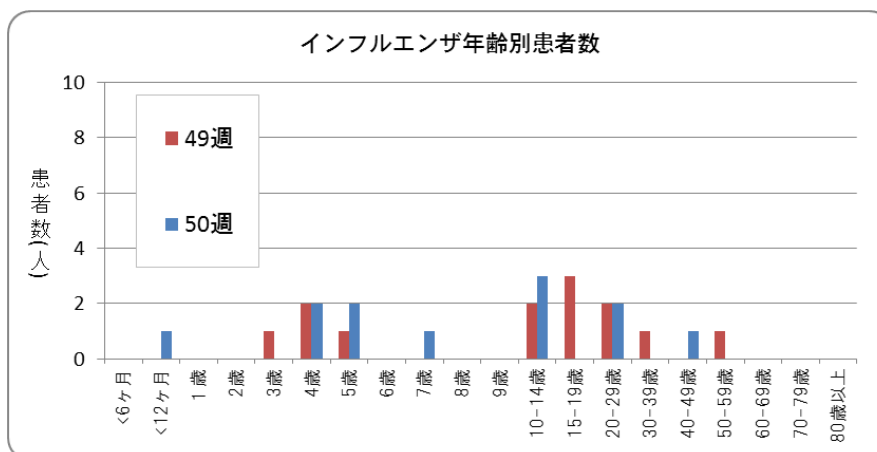
インフルエンザは、備中地域 5 名、岡山市 4 名、美作地域 2 名、倉敷市 1 名の報告があり、県全体で 12 名が報告され、前週とほぼ同数でした。（定点あたり 0.15 → 0.14 人）。インフルエンザとみられる学級閉鎖が笠岡市の小学校 1 校で発生し、この小学校を含む備中地域で患者が増加しています。このうちの患者 2 名からインフルエンザウイルス B 型が検出されました。また、岡山市のインフルエンザ患者 2 名からは AH3 型が検出されています。

県内の発生はまだ散発的であり、多くの学校で冬休みに入りますので学校での感染の機会は減りますが、手洗い・うがいを励行する、人混みではマスクを着用する、せきエチケットを守るなど、自分でできる感染予防に努めましょう。

全国集計第 49 週 (12/3～12/9) 速報値によると、全国では定点あたり 0.57 人（前週 0.31 人）であり、佐賀県（5.58 人）、沖縄県（2.81 人）など 8 都道府県で流行開始の指標である定点あたり 1.00 人を越えています。全国で検出されたインフルエンザウイルスは AH3 型が 84%、AH1pdm09 型が 8%、B 型が 8% であり、昨シーズンの同時期同様 AH3 型が最も多く検出されています。

1. 年齢別発生状況 第 50 週 (12/10～12/16)

特定の年齢層での増加はなく、現在は散発的な発生にとどまっています。

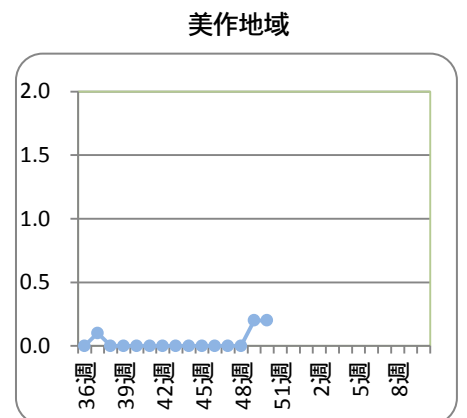
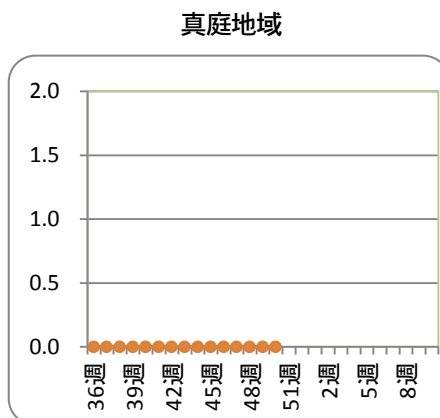
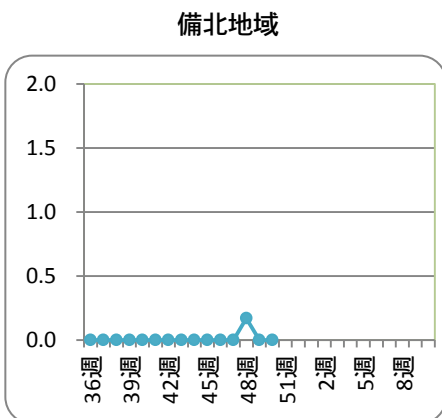
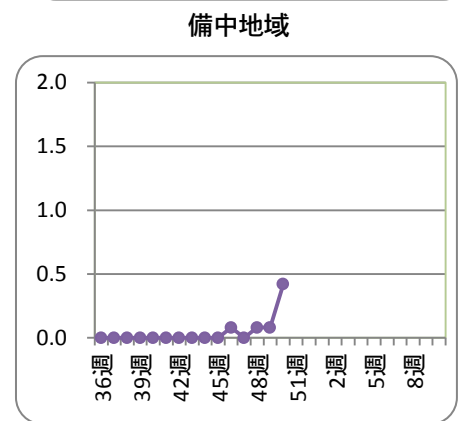
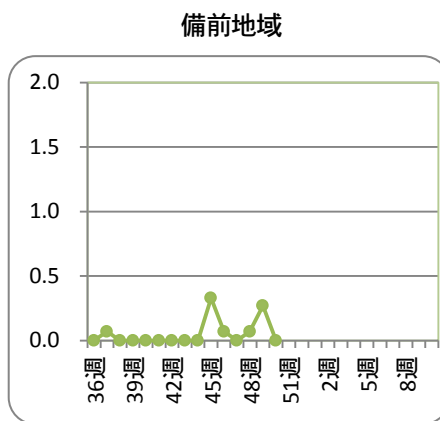
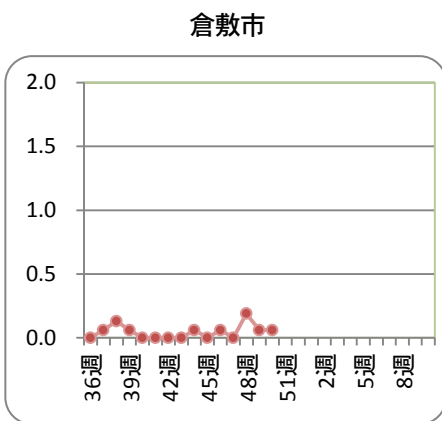
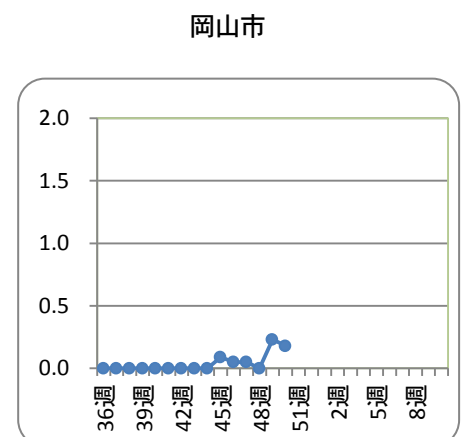
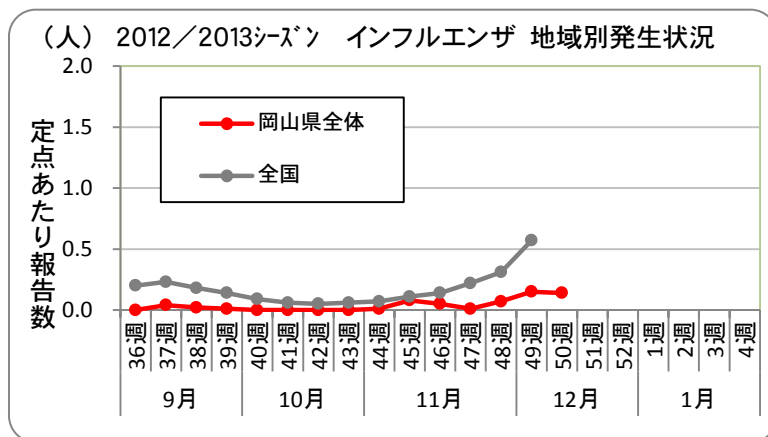


2. 地域別発生状況

第50週（12/10～12/16） 前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	12	➡	備 中	患者数	5	⬆️
	定点あたり	0.14			定点あたり	0.42	
岡山市	患者数	4	⬆️	備 北	患者数	0	➡
	定点あたり	0.18			定点あたり	0.00	
倉敷市	患者数	1	➡	真 庭	患者数	—	—
	定点あたり	0.06			定点あたり	—	
備 前	患者数	0	⬇️	美 作	患者数	2	➡
	定点あたり	0.00			定点あたり	0.02	

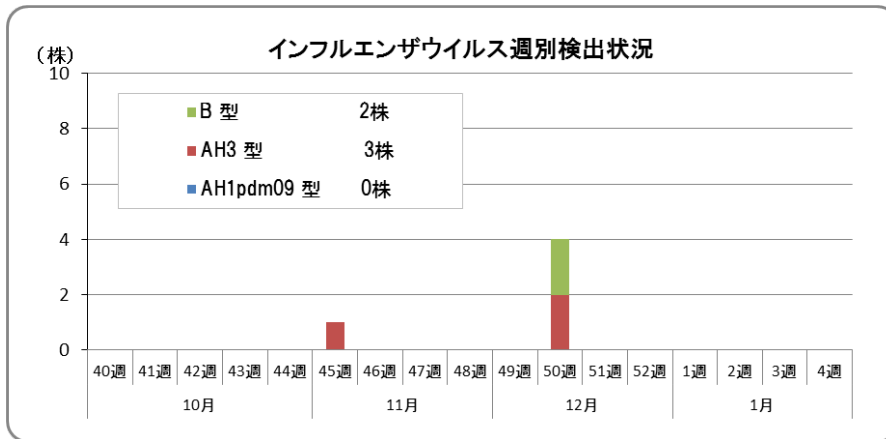
【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ⬇️ 1.1～2倍未満の減少 ⬆️ 1.1未満の増減 ➡
 1.1～2倍未満の増加 ⬆️ 2倍以上の増加 ⬆️ —：未発生



3. インフルエンザウイルス検出状況 第50週（12/10～12/16）

第50週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、岡山市のインフルエンザ患者2名からAH3型が、また、笠岡市の集団発生事例の患者2名からB型が検出されました。

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルス AH3 型	第50週	2012年12月11日	岡山市	50代	女	
インフルエンザウイルス AH3 型	第50週	2012年12月11日	岡山市	50代	女	
インフルエンザウイルス B 型	第50週	2011年12月12日	笠岡市	小学生	男	集団発生事例
インフルエンザウイルス B 型	第50週	2011年12月12日	笠岡市	小学生	男	集団発生事例



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数 第50週（12/10～12/16）

第50週、インフルエンザとみられる学級閉鎖が備中保健所管内（笠岡市）の小学校1校でありました。

1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	11	23	7	19	1	2	—	—	—	—	1	2	H24. 11. 6
岡山市	—	12	—	12	—	1	—	—	—	—	—	1	H24. 11. 6
倉敷市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備前地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備中地域	11	11	7	7	1	1	—	—	—	—	1	1	H24. 12. 12
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第50週：1施設

累計：2施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	—	—	1	1	—	—	—	1	—	—

保健所別報告患者数 2012年 50週 (2012/12/10～2012/12/16)

2012年12月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	12	0.14	4	0.18	1	0.06	-	-	5	0.42	-	-	-	-	2	0.20
RSウイルス感染症	47	0.87	9	0.64	8	0.73	2	0.20	4	0.57	-	-	2	1.00	22	3.67
咽頭結膜熱	8	0.15	5	0.36	-	-	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	55	1.02	21	1.50	21	1.91	3	0.30	5	0.71	-	-	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	1125	20.83	318	22.71	255	23.18	201	20.10	105	15.00	66	16.50	30	15.00	150	25.00
水痘	108	2.00	46	3.29	39	3.55	6	0.60	2	0.29	1	0.25	9	4.50	5	0.83
手足口病	13	0.24	10	0.71	2	0.18	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	27	0.50	16	1.14	4	0.36	2	0.20	4	0.57	-	-	-	-	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	1	0.50	-	-
流行性耳下腺炎	16	0.30	2	0.14	1	0.09	3	0.30	8	1.14	-	-	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	3	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	1	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2012年 50週 (2012/12/10～2012/12/16)

2012年12月20日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	12	0.14	4	0.18	1	0.06	-	-	5	0.42	-	-	-	-	2	0.20
咽頭結膜熱	8	0.15	5	0.36	-	-	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	55	1.02	21	1.50	21	1.91	3	0.30	5	0.71	-	-	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	1125	20.83	318	22.71	255	23.18	201	20.10	105	15.00	66	16.50	30	15.00	150	25.00
水痘	108	2.00	46	3.29	39	3.55	6	0.60	2	0.29	1	0.25	9	4.50	5	0.83
手足口病	13	0.24	10	0.71	2	0.18	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	2	0.04	2	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	1	0.50	-	-
流行性耳下腺炎	16	0.30	2	0.14	1	0.09	3	0.30	8	1.14	-	-	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	3	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2
を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2012年 第50週 2012/12/10~2012/12/16)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	12	-	1	-	-	-	2	2	-	1	-	-	3	-	2	-	1	-	-	-	-

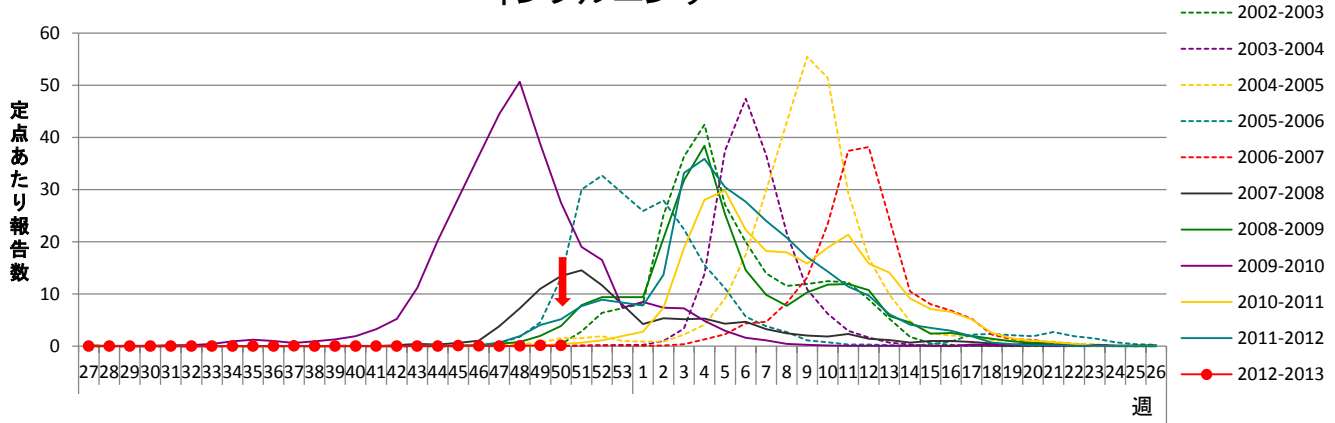
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	47	8	10	18	5	2	3	-	1	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	8	-	-	3	2	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	55	-	1	1	5	6	1	4	5	4	9	5	8	-	6
感染性胃腸炎	1125	8	60	137	113	96	108	75	83	58	37	48	90	36	176
水痘	108	2	6	22	28	16	11	9	4	2	2	2	2	-	2
手足口病	13	-	1	1	5	1	1	2	1	-	-	-	1	-	-
伝染性紅斑	2	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
突発性発疹	27	1	16	8	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	16	-	-	1	1	4	2	4	1	1	-	-	1	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-

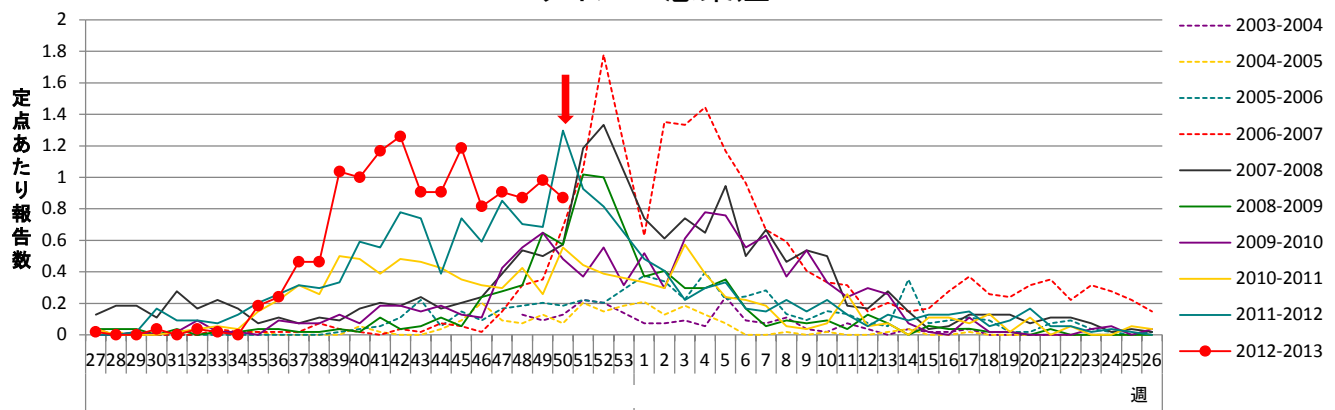
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

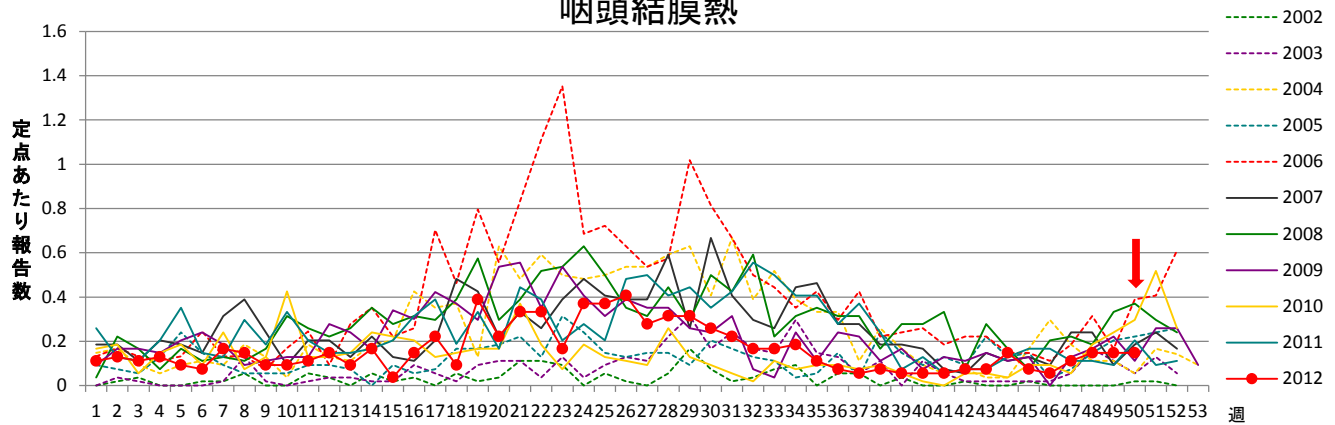
インフルエンザ



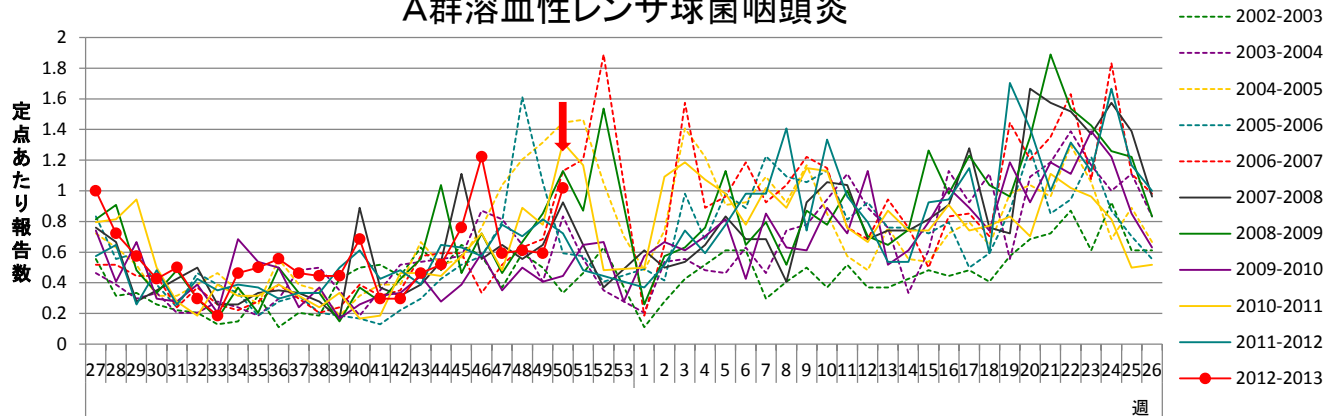
RSウイルス感染症



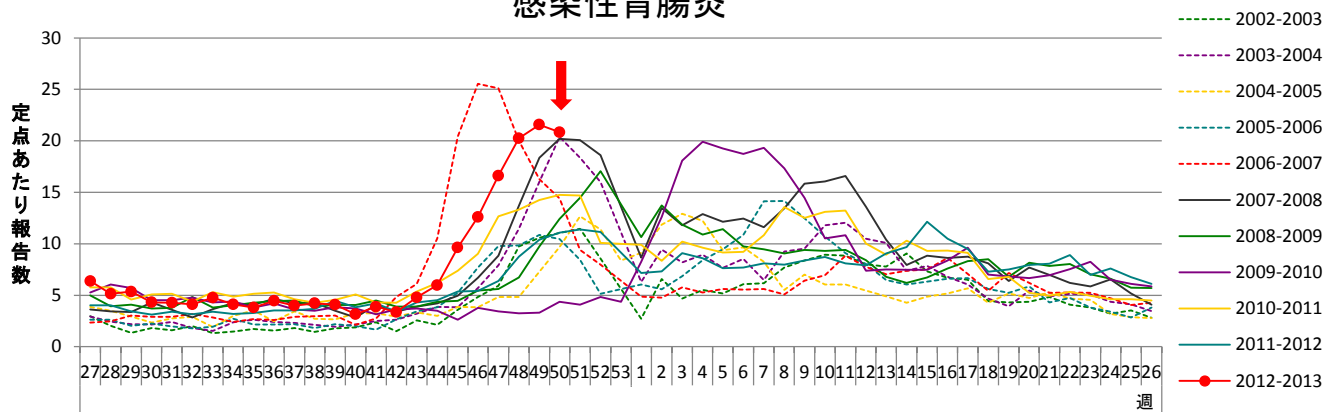
咽頭結膜熱



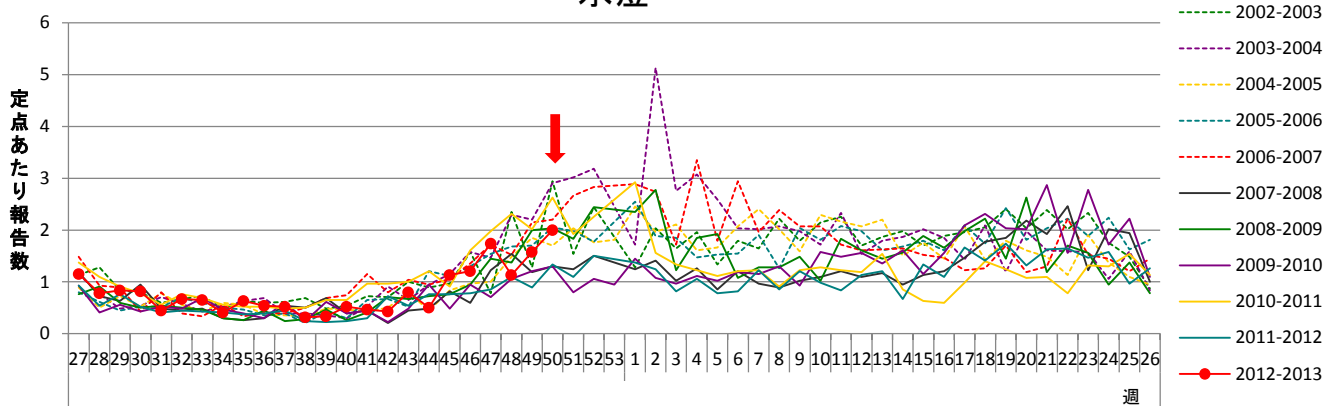
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



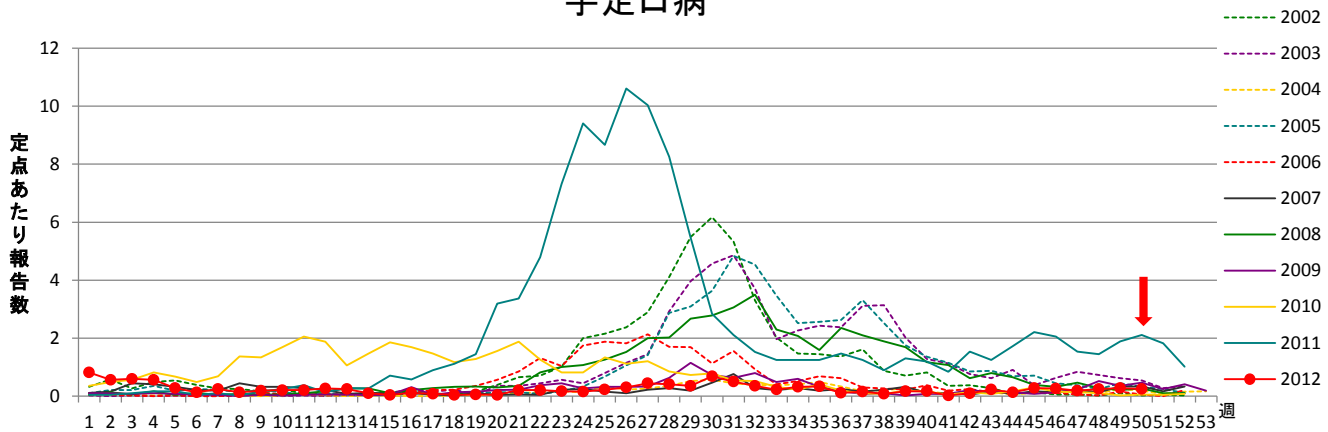
感染性胃腸炎



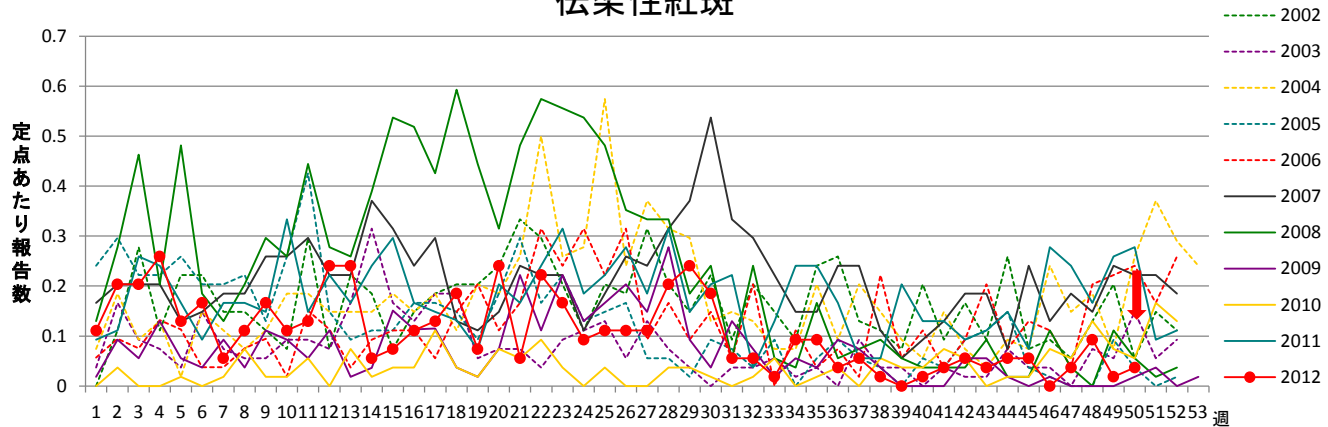
水痘



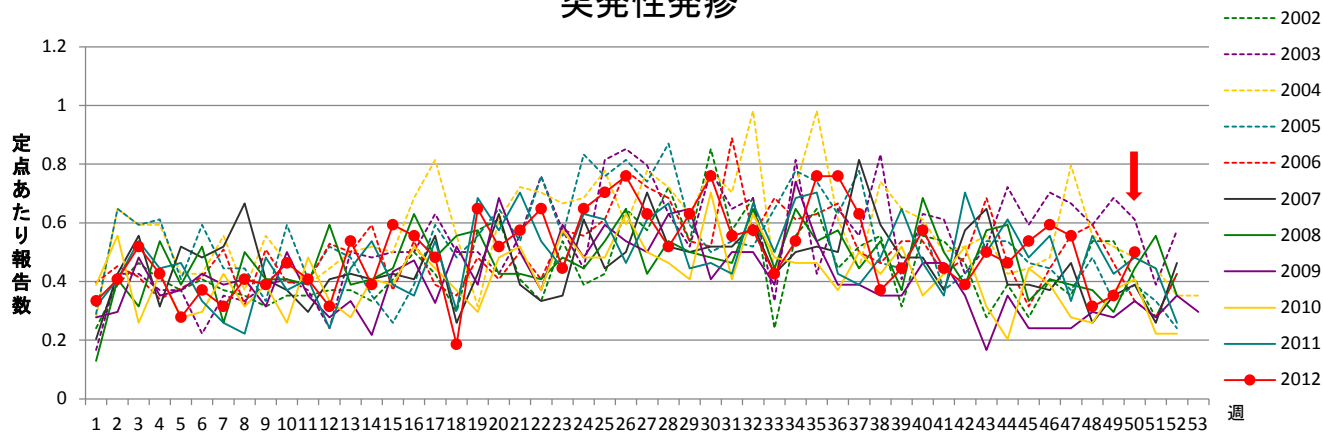
手足口病



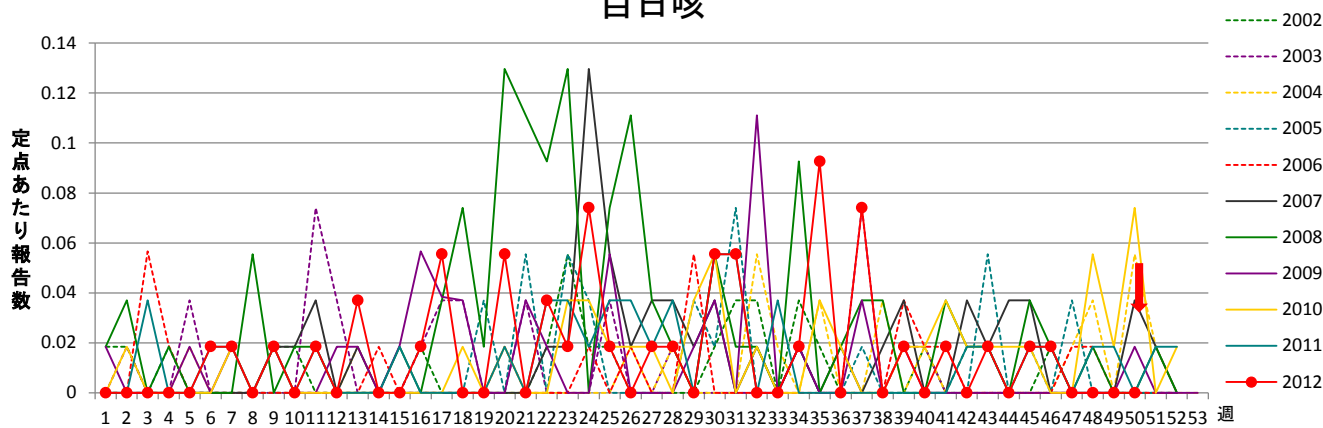
伝染性紅斑



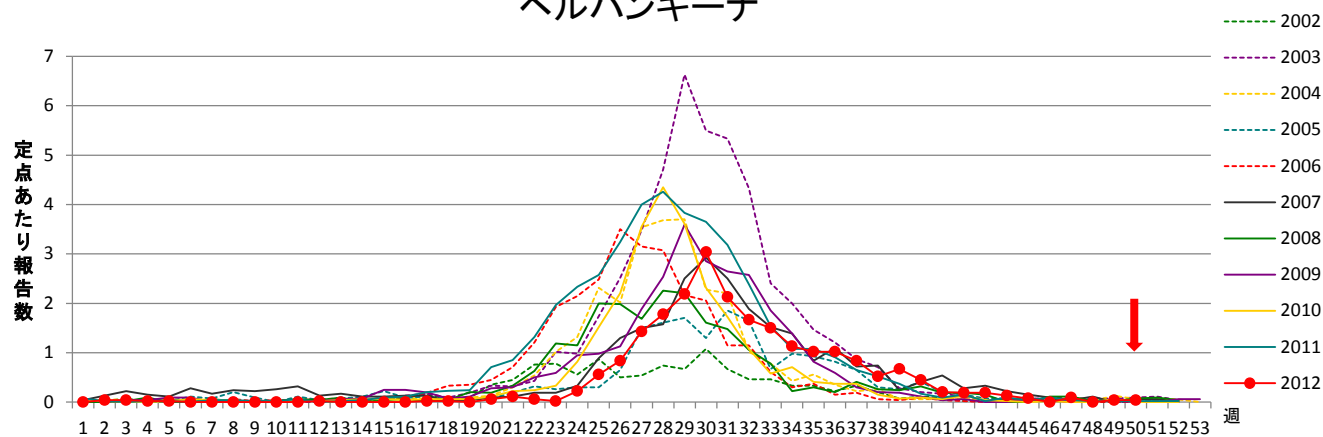
突発性発疹



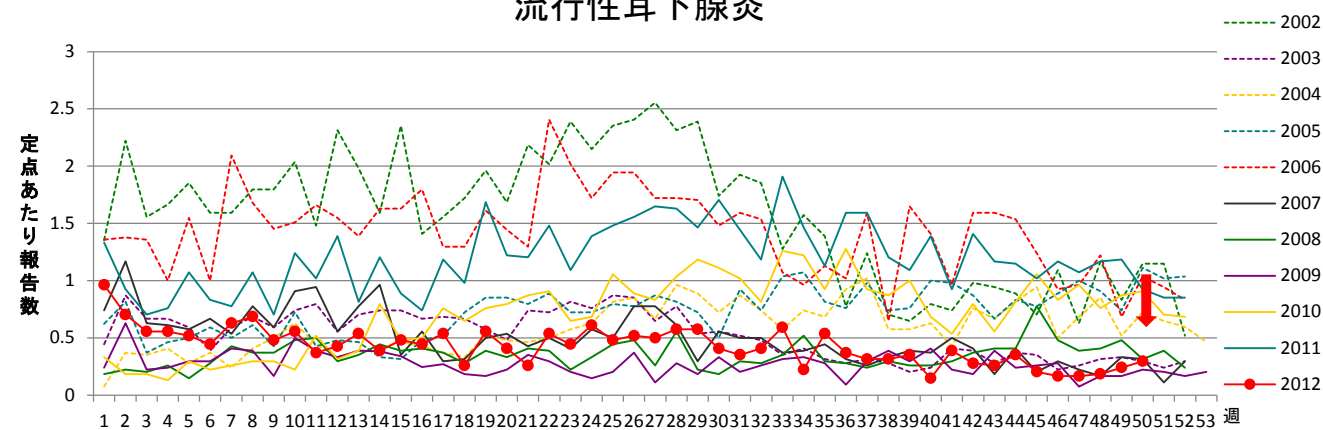
百日咳



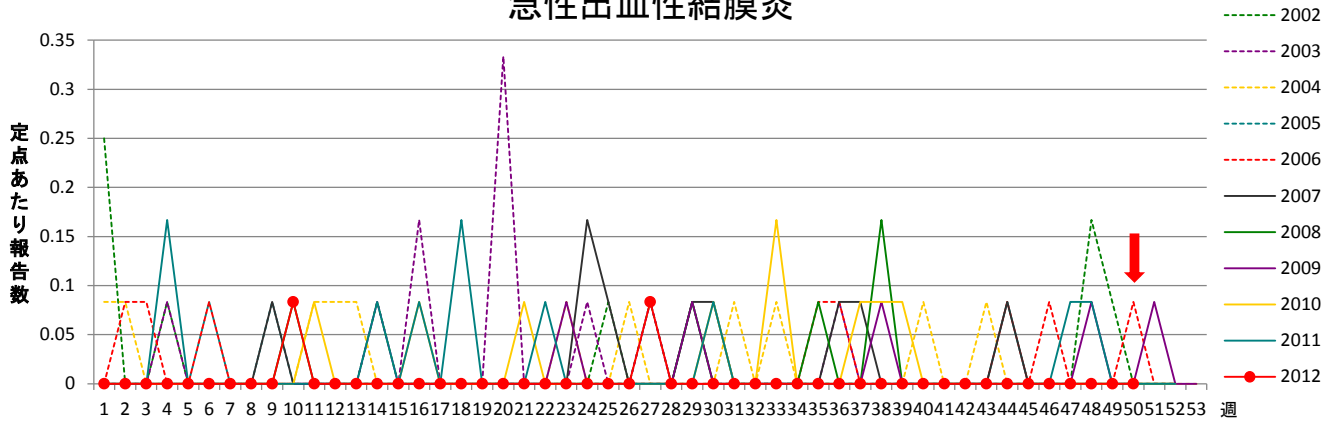
ヘルパンギーナ



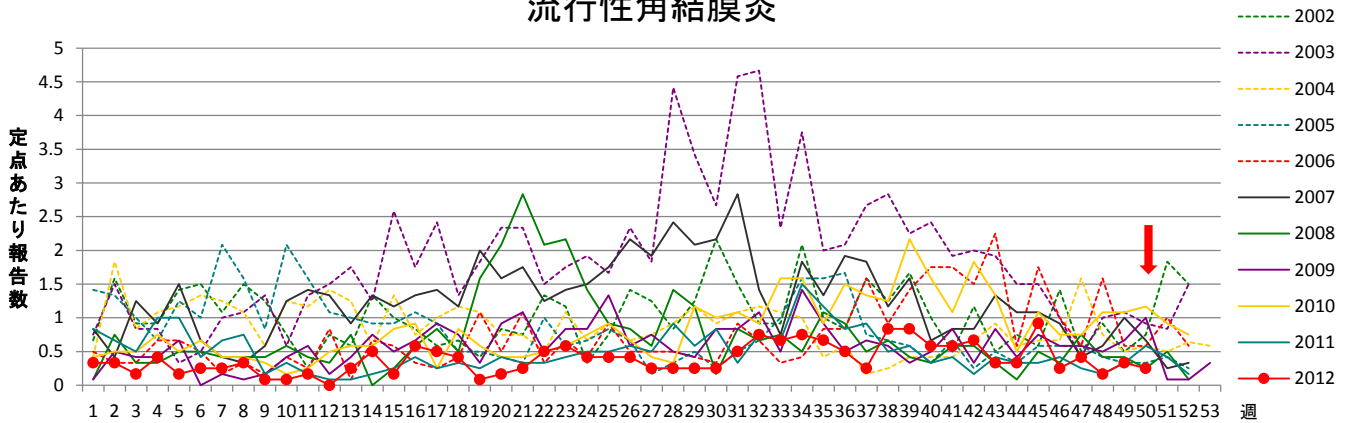
流行性耳下腺炎



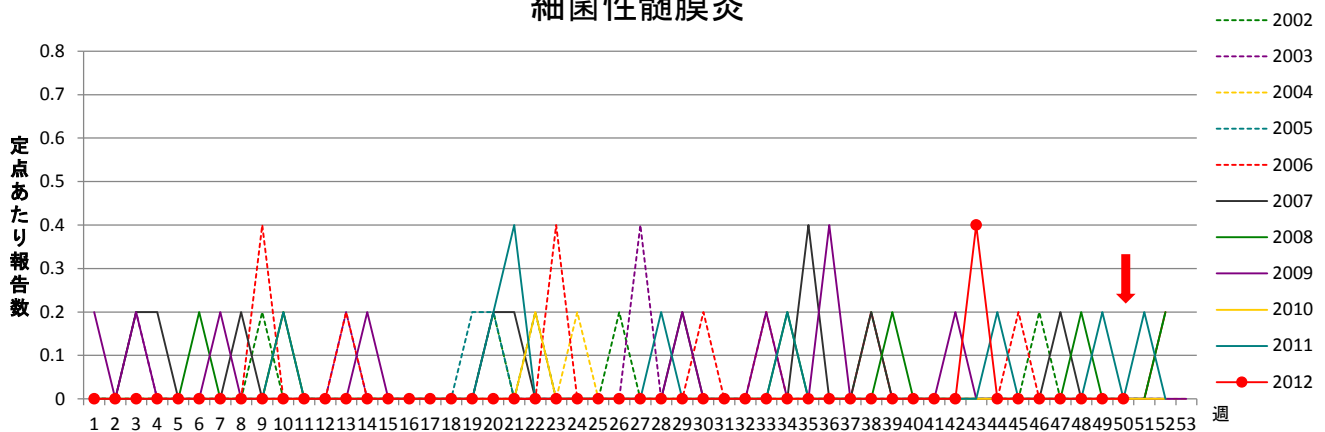
急性出血性結膜炎



流行性角結膜炎



細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎

